

2025年3月期第2四半期（中間期） 業績概要

杉田 俊一

アンリツ株式会社
取締役 常務執行役員

2024年10月30日



東証 プライム
証券コード：6754
<https://www.anritsu.com>

（ノート部記載なし）

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目 次

1. 事業概要
 2. 2025年3月期第2四半期（中間期） 連結決算概要
 3. 2025年3月期 通期業績予想（連結）
 4. 当社の取り組みについて
- Appendix：用語集

（ノート部記載なし）

1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ◆ モバイル市場：5G、5G活用
- ◆ ネットワーク・インフラ市場：データセンター、光NW、無線NW
- ◆ エレクトロニクス市場：基地局建設保守、電子部品、無線設備



PQA事業

食と医薬品の安全・安心

- ◆ 食品検査市場
- ◆ 医薬品検査市場



環境計測事業

脱炭素社会を目指して

- ◆ EV/電池試験市場
- ◆ ローカル5G導入支援



その他

- ◆ センシング & デバイス
- ◆ その他



(セグメント別売上比率)

2024年3月期 実績（連結）：1,100億円

通信計測 64%			PQA 23%	環境計測 7%	その他 6%
モバイル 42%	ネットワーク・インフラ 36%	エレクトロニクス 22%			

2025年3月期（4-9月）実績（連結）：533億円

通信計測 64%			PQA 24%	環境計測 7%	その他 5%
モバイル 41%	ネットワーク・インフラ 39%	エレクトロニクス 20%			

(通信計測事業 地域別売上比率)

2024年3月期 実績

日本 16%	アジア他 38%	米州 26%	EMEA 20%
--------	----------	--------	----------

2025年3月期（4-9月）実績

日本 14%	アジア他 40%	米州 28%	EMEA 18%
--------	----------	--------	----------

(ノート部記載なし)

2 - 1 . 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比 受注は4%減も、売上は5%増、営業利益は22%増の増収増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	558	535	△ 23	△4%
売上高	509	533	24	5%
営業利益	29	36	7	22%
税引前利益	36	34	△ 2	△6%
当期利益	28	22	△ 6	△20%
当期包括利益	71	3	△ 68	△95%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

グループ全体の受注高は前年同期比4%減の535億円となりましたが、これには、前年同期において通信計測事業で大型の複数年契約があったことが影響しています。売上高は前年同期比5%増の533億円、営業利益は前年同期比22%増の36億円で、増収増益となりました。一方、当期利益は、金融費用等の増加により、前年同期比20%減の22億円となりました。

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 前年同期比で、通信計測は増収減益、PQA、環境計測はともに増収増益

(単位: 億円)

国際会計基準(IFRS)		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	331	340	9	3%
	営業利益	31	25	△6	△18%
PQA	売上高	117	130	13	11%
	営業利益	2	11	9	336%
環境計測	売上高	30	35	5	17%
	営業利益	△2	1	3	-
その他	売上高	30	28	△2	△7%
	営業利益	3	6	3	113%
調整額	営業利益	△5	△7	△2	-
合計	売上高	509	533	24	5%
	営業利益	29	36	7	22%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

通信計測事業は、生成AIの普及拡大によるデータセンター等でのネットワーク高速化に向けた測定需要が好調に推移し、売上高は前年同期比3%増の340億円の増収となりました。第2四半期（7-9月）の営業利益率（11.3%）は、第1四半期の営業利益率（3.6%）を上回りましたが、第1四半期に計上した事業構造改善費用等で、営業利益は前年同期比18%減の25億円（営業利益率7.5%）の減益となりました。

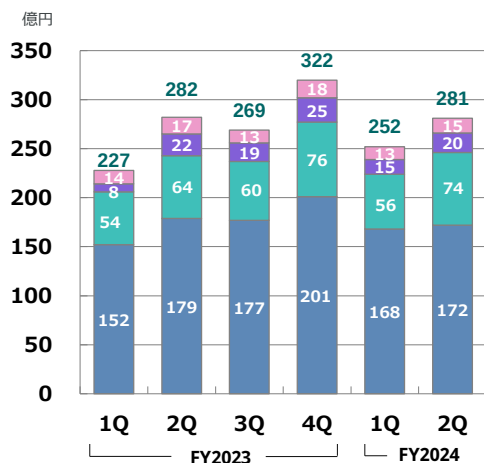
PQA事業は、食品市場の品質保証プロセスの自動化、省人化を目的とした設備投資需要が好調に推移し、売上高は前年同期比11%増の130億円、営業利益は前年同期比9億円増の11億円（営業利益率8.2%）の増収増益となりました。

環境計測事業は、国内においてEV/電池向け試験需要が好調に推移し、売上高は前年同期比17%増の35億円、営業利益は前年同期比3億円増の1億円（営業利益率1.8%）の増収増益となりました。

その他の事業では、売上高は前年同期比7%減の28億円、営業利益は前年同期比3億円増の6億円の減収増益となりました。

2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 2Q(7-9月)営業利益率：連結 10.5%、通信計測 11.3%、PQA 12.5%、環境計測 5.8%



売上高

(注) 値はそれぞれで四捨五入



営業利益

第2四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

連結	30億円（営業利益率：10.5%）
通信計測	19億円（営業利益率：11.3%）
PQA	9億円（営業利益率：12.5%）
環境計測	1億円（営業利益率：5.8%）

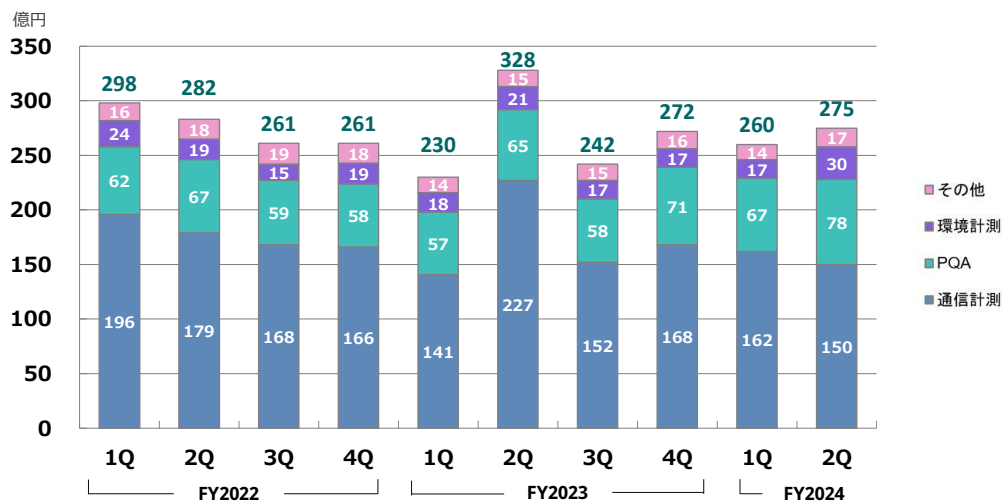
2-4. 事業別営業概況

セグメント 2025年3月期（4-9月）の状況	
➡ 通信計測：世界的な物価、人件費上昇等で止まっていた設備投資が再開も、投資への慎重姿勢が継続 固定ネットワークの高速化需要は好調	
モバイル	5G開発市場の投資は不安定も需要は継続
ネットワークインフラ	グリーンデータセンターや生成AI専用のデータセンターの構築が加速
エレクトロニクス	6G基礎研究がスタート
アジア他・日本	中国の5Gスマホ開発市場の投資停滞もデータセンター市場が好調
アメリカ	生成AI等によりデータセンター市場が好調 基地局建設・保守市場が低調
➡ PQA：米州を中心に海外での需要が好調。国内ではインバウンド関連需要は好調	
➡ 環境計測：EV/電池向け試験装置の需要が好調	

(ノート部記載なし)

2-5. 受注高推移

▶ 前年同期比 通信計測：34%減、PQA：20%増、環境計測：44%増

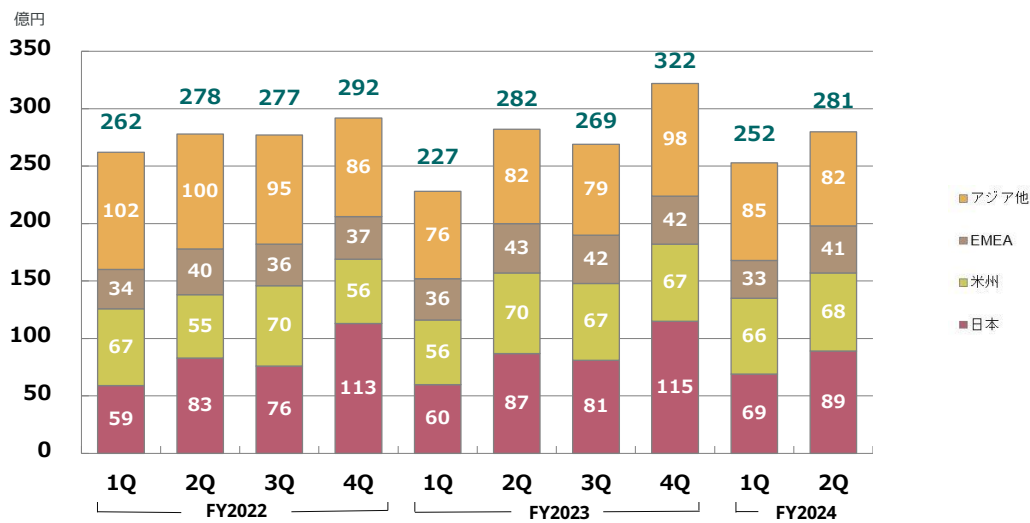


(注) 値はそれぞれで四捨五入

第2四半期のセグメント毎の受注高は、それぞれ前年同期比、通信計測事業では34%減（前年同期において大型の複数年契約がありました）の150億円、PQA事業では20%増の78億円、環境計測事業では44%増の30億円となりました。

なお、受注残高はグループ全体では341億円（前年同期比19%減）、通信計測事業では200億円（同30%減）、PQA事業では79億円（同9%増）、環境計測事業では48億円（同1%増）となりました。

2-6. 地域別売上高推移



(注) 値はそれぞれで四捨五入

(ノート部記載なし)

2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率 20.2%

FY2024 (4-9月)

①営業CF： 108億円

②投資CF： △15億円

③財務CF： △37億円

フリーキャッシュフロー

(①+②)： 93億円

現金同等物期末残高

503億円

有利子負債高

64億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳

(単位：億円)

売上債権	49			
減価償却	30			
棚卸資産	20			
税引前利益	34			
税金	△13	設備投資 等	△15	
その他	△12		配当金	△26
			その他	△11
営業CF 108		投資CF △15		財務CF△37

営業キャッシュフローは、108億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローは、15億円の資金支出となりました。

その結果、フリー・キャッシュフローは93億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローは、37億円の資金支出となりました。主なものは、配当金の支払い26億円（期末配当分1株20円）です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より47億円増加の503億円となりました。

3. 2025年3月期 通期業績予想（連結）

4月25日公表値から変更なし

（単位：億円）

		2024/3期	2025/3期		
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高		1,100	1,150	50	5%
営業利益		90	110	20	22%
税引前利益		100	110	10	11%
当期利益		77	83	6	8%
通信計測	売上高	710	738	28	4%
	営業利益	75	92	17	22%
PQA	売上高	254	267	13	5%
	営業利益	13	19	6	47%
環境計測	売上高	74	90	16	21%
	営業利益	5	7	2	30%
その他	売上高	61	55	△ 6	△ 10%
	営業利益	8	4	△ 4	△ 51%
調整額	営業利益	△ 12	△ 12	0	-

（参考）FY23 為替レート : 1米ドル145円、1ユーロ157円
FY24 通期予想作成時の想定為替レート : 1米ドル145円、1ユーロ155円

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

2025年3月期の通期業績の見通しは4月25日の公表値から変更はありません。

4.当社の取り組みについて

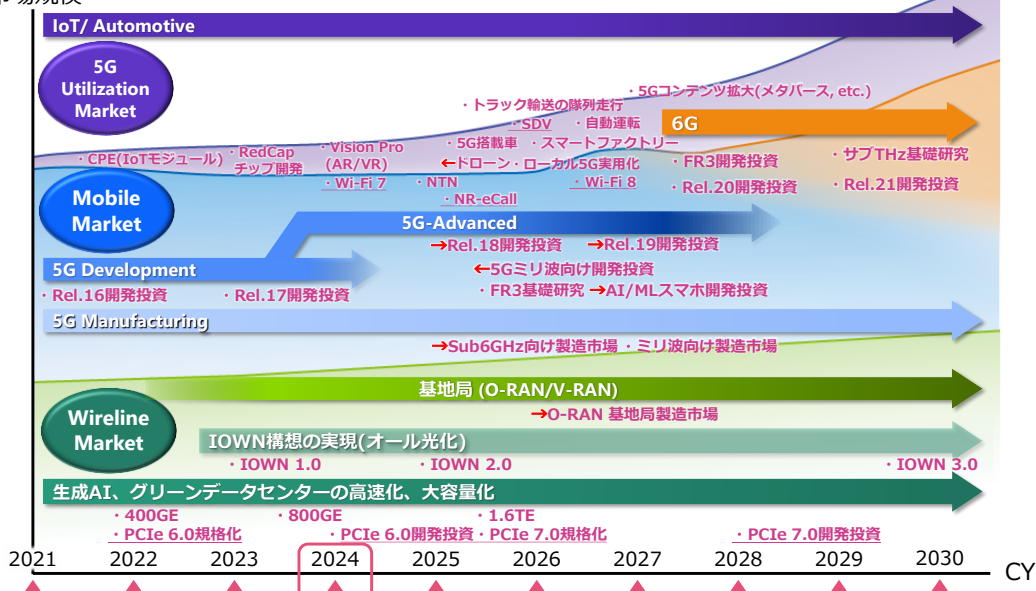
濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

(ノート部記載なし)

4-1. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模



スマートフォン市場は、インフレによる5Gスマートフォン価格の高騰はありますが、出荷台数については世界的に回復の兆しが見えてきました。また、日本ではミリ波活用に向けた検討が進んできています。

5G利活用分野に係る計測器市場はこれからも緩やかに成長するとみており、今後、5Gスマートフォン向け計測器市場の復調とともに、5G計測器市場は2027年頃までは緩やかに推移すると見込んでいます。

また、6Gでの使用を見据えた周波数帯FR3（7GHz-15GHz）が、WRC-23で決まり、韓国、アメリカでは、6Gの実現に向けた研究がスタートしています。

6Gについては、2030年のサービス開始を目指し、3GPPリリース21で標準化される予定であり、計測器需要は2027年頃から本格的に立ち上がると考えています。

2023年に登場した生成AIにより、データセンターの新設や大容量化が加速しています。生成AI向けのデータセンターにおいては、800GEネットワークへの更新が本格化してきています。さらに1.6TEの高速化要求も前倒しされており、その先のオール光化など、ネットワークの高度化に向けた動きがネットワーク向けの計測器需要を牽引すると考えています。

4-2. 新領域分野への取り組み

6G

- 6G/APNによる次世代通信ネットワークを支える最先端の通信計測ソリューション
 - ・FR3やサブテラヘルツ評価ソリューション
 - ・AI（人工知能）によるテスト効率化
 - ・複雑化する電波環境を可視化するフィールドテストソリューション

産業計測

- 汎用計測器を広い産業へ拡販
 - ・汎用計測器や電源のラインナップを強化
 - ・「A-SKILLS」による技術知識と販売スキルの教育、販売力強化
 - ・ブランド力、知名度アップ

医薬品/医療

- 最新の医薬品検査ソリューションを軸に医薬品市場を開拓
 - ・錠剤の成分量を全数検査するNIR検査装置
 - ・粉体成分のインライン検査向けNIR分光モジュール
- 眼科検査機器向け光源、がん治療向けの光応用技術

EV/電池

- カーボンニュートラル社会に向けたEV/電池評価、エネルギーマネジメント
 - ・パワートレインのエミュレーションと計測技術
 - ・高電圧・大電流・大容量エネルギーを高度かつ自在に制御する新技術ブランド「MEDT」確立
 - ・海外展開のための技術確立

※NIR：近赤外線

(ノート部記載なし)

4-3. 錠剤の成分量を全数検査するNIR検査装置の紹介

NIR錠剤検査装置

NIR吸収スペクトル測定法により、錠剤内部を全数（25万錠/時）透過測定します。
生産品質のコントロールや、スケールアップ時のプロセス評価に適しています。

開発中

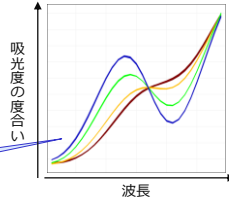
- **成分量分析**：非破壊で錠剤の成分量を検査します。
- **クロスコンタミネーションの防止**：異錠剤の混入を検出し、成分が異なる錠剤を排除します。
- **異物検査**：錠剤内部に混入した毛髪や虫などの有機由来の異物を検出できます。



混入した毛髪

主成分が高濃度なほど振幅が大きくなる

NIR吸収スペクトル測定
(データ処理後)



(ノート部記載なし)

4-4. CEATEC 2024に出展

アンリツブースの概要

テーマ：未来をつくる人を支える
アンリツの「はかる」技術
ブース来訪者数：2,292人



CEATEC アジア最大級
デジタル技術の総合展示会
会期：2024年10月15日～10月18日
会場：幕張メッセ（千葉市）
出展者数：808社／団体*
登録来場者総数：112,014人* *JEITA公表



Anritsu
Advancing beyond

通信の未来

ドローンの社会実装やIOWN構想の
実現を支えるソリューションの展示

モビリティの未来

交通弱者(VRU)保護システムや
光センシング技術、新技術ブランド
MEDT製品の展示

医薬品・医療の未来

錠剤・カプセル医薬品向けの
金属検出機や眼科診断機器組み用の
センシング光源の展示

異常時

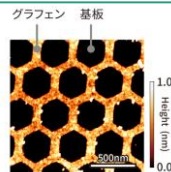


ものづくりの未来

開発・生産現場の状況を映像や文字等
で見える化するソリューション、
AccelVisionの展示

想像を超えた未来

未来の素材として着目するグラフェンの
研究開発や100GHz超の受動デバイス
設計技術のパネル展示



(ノート部記載なし)

Appendix : 用語集

3GPP :	3rd Generation Partnership Project	NR-eCall :	5th generation New Radio emergency Call
5G NR :	5th Generation New Radio access technology	NTN :	Non-Terrestrial Network
APN :	All-Photonics Network	NW :	Network
AR :	Augmented Reality	O-RAN :	Open Radio Access Network
A-SKILLS :	Anritsu SKILLS training center	PCIe Gen6 :	Peripheral Component Interconnect Express Generation 6
CPE :	Customer Premises Equipment	PQA :	Products Quality Assurance
EM:	Environmental Measurement	RedCap :	Reduced Capability
EMEA :	Europe, Middle East, Africa	SDV :	Software-Defined Vehicle
EV :	Electric Vehicle	T&M:	Test and Measurement
IOWN :	Innovative Optical and Wireless Network	VR :	Virtual Reality
MEDT :	Mutual Energy Drive Technologies	V-RAN :	Virtual Radio Access Network
ML :	Machine Learning	VRU :	Vulnerable Road User
NIR :	Near Infrared Rays	WRC :	World Radiocommunication Conference

(ノート部記載なし)



(ノート部記載なし)